令和６年４月１日
富山県農業技術課

今後の霜注意報に伴う農作物等の管理対策の徹底について

３月 28 日に新潟地方気象台から北陸地方の向こう１か月の天候の見通しが発表され、期間の前半は気温がかなり高くなると見込まれています。しかし、春の天気は数日周期で変わりやすい上、高気圧に覆われた日には放射冷却等により農作物への霜害等が懸念されます。

つきましては、本格的な農作業時期を迎えるに当たり、以下のとおり農作物の管理を徹底願います。また、今後とも富山地方気象台が発表する気象警報・注意報に十分注意願います。

１　水稲

（１）浸種時は、10～15℃の水温確保に努める。特に、浸種開始日の水温は 12.5℃以下に低下しないよう注意する。

（２）低温時は、苗の搬出直後のかん水を控えるか、かん水しても覆土を落ち着かせる程度とし、寒冷紗等で被覆して保温に努める。

（３）育苗ハウスは、夕方早めに密閉して保温に努めるとともに、ストーブを入れるなどして、夜間の温度が５℃を下回らないように努める。

（４）緑化期から２葉期にかけて５℃前後の低温に遭遇した場合は、ピシウム菌による苗立枯病の発生が懸念されるので、速やかにタチガレエースM液剤等を灌注する。なお、タチガレエースM液剤の育苗箱への使用回数は１回なので、使用回数に留意する。

（５）田植え直後のほ場は、保温効果を高めるため深水管理とする。

２　果樹

（１）マルチや伸びた草は果樹園内外の気温の上昇を妨げるので、マルチは霜害危険期を過ぎてから設置するともに、草は短く刈り、気温の低下を防ぐ。

（２）霜害による被害が懸念される場合は、園地周囲の防風網を下ろし、燃焼資材（灯油＋キッチンペーパー又は練炭）を用いて園内の温度上昇や空気の対流を促す。なお、燃焼資材を使用する場合は、周辺環境に十分配慮する。

（３）人工授粉には、発芽率の高い花粉を用いる。受粉後に降霜がみられた場合は、再度授粉を行い結実の確保に努める。

３　野菜・花き

（１）ハウス栽培では、不織布等による保温や、ろうそく、ストーブ等での空気の対流を促す。

（２）露地栽培では、トンネルの早めの密閉や不織布等で被覆するなど保温に努める。

事務担当
【農業技術課】　研究普及・スマート農業振興係（076-444-3277）
広域普及指導センター　（076-429-5042）